

第二回肥薩おれんじ鉄道未来戦略検討委員会 議事概要

1 日時 令和7年2月13日（木）10:30-11:30

2 場所 鶴丸会館（出水市）

3 出席者

出席者名簿のとおり

4 会議の内容

（報告）第1回肥薩おれんじ鉄道未来戦略検討委員会幹事会について

（議事）肥薩おれんじ鉄道沿線地域公共交通計画の骨子（案）について

【出された主な意見】

マイレール意識の醸成について

（水俣市）

時間があるときは「JR・おれんじぐるりんきっぷ」が便利。行きはおれんじ鉄道を利用し、景色を楽しみながら読書もできる。帰りは新幹線を利用すると早く帰れる。このようなJRとの連携をPRすれば利用者は増加するのではないか。また、高齢者向け割引等のPRに取り組んでもよいのではないか。

沿線に7市町あるので、一年を通して市町がタイミングを変えて、駅でイベントを実施してもよいのではないか。熊本市や鹿児島市などの都市部からの誘客につながると思う。

（出水市）

子ども向けのイベントや親への訴求など、新たな切り口も計画されている。沿線市としてさらに取り組みを強化したい。

二次交通について

（熊本県バス協会）

バス・鉄道、それぞれの業界は運転士不足など非常に厳しいが、お互いの課題を解決できる方法を模索するべき。

観光について

（鹿児島県観光連盟）

おれんじ食堂は、どのような方が利用しているのか、どこから（地域）、ど

うやって来ているのか（車・鉄道）などもふまえ、ターゲットを絞って情報発信すべき。

また、おれんじ食堂に乗車後、どこに観光に行くのか。地域が連携し、体系的なルートを作って発信することを検討してもよいのではないか。

（肥薩おれんじ鉄道）

やはり地域・地元が大切。利用者の増加のためには二次交通の接続も大切だが、運転士不足や燃油高騰などの問題もあり、現実的な方法を検討しないといけない。それが地域外からの誘客へもつながっていく。

また、おれんじ食堂以外の企画にも力を入れて定期外収入も増やさないといけない。

駅を拠点とした広がり、駅を地域活性化の拠点とし、人と人のつながりが生まれるような駅になるといい。

（大分大学 大井教授）

物流の減少について、中国地方の豪雨などの影響による運休（貨物列車運行不能）での逸失は考慮されているのか。また、物流をこの構成員および関係者の努力で増やせる余地があるのか。

施策8「駅施設の改善による利便性の向上」・9「他分野機能・拠点の集約による駅の賑わい創出」について、駅をバス・タクシー会社の拠点としての活用も含め、協力して知恵をひねってはどうか（待合所、乗務員休憩所、乗車券発売所など）。ノーマイカーデー的施策で、沿線飲食店・タクシー会社等と連携して、年に1・2日ぐらいは通勤をおれんじ鉄道にしてもらい、帰りに飲食して帰ってもらう取り組みなどはどうか。（行政職員から始めて、民間事業所に広げる）

施策10「沿線一体となった地域資源の磨き上げ・PR」について、観光資源だけではなく、文化施設等との連携（イベント開催時のおれんじ鉄道利用促進、沿線図書館などの共同利用提案＝小さい町などは単独での規模が小さいので、大きい町の図書館に通ってもらうなど）もあってもよいと思う。

P D C Aについては、この協議会で共有するのみならず、両県の協議会（バス網を中心とする地域公共交通計画の進捗管理）でもきちんと議題にし、意見聴取して相互にフィードバックしたほうが良い。

その他

（八代市）

住民がおれんじ鉄道を身近に感じるように、沿線市としてしっかりやってい

きたい。あわせて、おれんじ鉄道への赤字補填を減らす努力もしなければならない。様々な施策を検討する際に、常におれんじ鉄道の存在を意識して、誘客や観光資源の掘り起こしなどをやっていきたい。

（鹿児島県バス協会）

地域交通は生き残るために頑張っている。人口減少社会の中、利用者を増加させることは難しいし、業界も運転士不足や経費の増加で縮小傾向。

7割を占める定期客を増やすためにどう取り組むか。何が問題でおれんじ鉄道が使われないのか、バスとのダイヤがあっているのか、免許返納者が利用しやすい環境なのか、など、掘り下げて何が課題なのか協議すべき。

また3割の定期外、観光については、様々な企画を実施しているが、なかなか実にならない。地道に続け、今後広げていけば実になるのか。国際線の就航も増えているため、インバウンドの呼び込みにも力を入れなければならない。

しっかりと連携しておれんじ鉄道を守りたい。